

浄土宗西山禅林寺派

# 潮音寺だより

http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/ ナモの寺 検索  
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

第341号  
平成24年3月

電話 052-671-4831  
ファックス 052-671-4856  
choonji@aichi.email.ne.jp

【出典】善導大師『往生礼讃』  
「当知本誓重願不虛 衆生称念必得往生」  
称名念仏するものは、必ず浄土に救いとり  
うと誓われた本願は、決して虚りではない。

水彩画：『白椿』 松村憲一

はまの  
生る

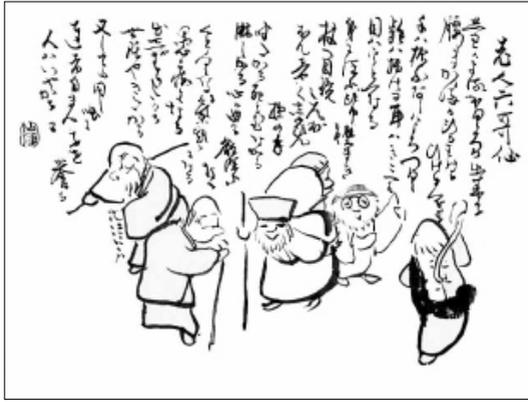


自分は  
いったいどこから来て  
どこへ帰るのか  
そんな  
疑問に思い煩うなかれ  
目には見えぬが  
宇宙を生み  
森羅万象を動かす  
大いなる慈悲の意思  
それを  
本願といい  
その主を  
弥陀と呼び  
その居所を  
浄土極楽という  
ゆえに  
われ浄土より来たり  
われ帰り往くところ  
極楽浄土なり

必得往生(ひつとくおうじょう)

仙厓(1750～1837)和尚が書

き残された、『老人六歌仙』とい  
うのがあります。



①しわがよるほくろが出来る腰曲  
がる頭がはげるひげ白くなる

②手は震う足はよろつく歯は抜け  
る耳は聞こえず目はうとくなる

③身に添うは頭巾襟巻杖目鏡たん

ぼ(湯たんぼ) 温石尿管孫の手

④聞きたがる死にともながる淋し  
がる心は曲がる欲深くなる

⑤くどくなる気短になる愚痴にな  
る出しゃばりたがる世話焼きたがる

⑥またしても同じ話に子を誉める  
達者自慢に人は嫌がる

以上ですが、そのユーモラスな  
画と共に、実に味わい深いものが  
あります。それぞれ、①から③に  
ついては身体的なものですから、  
致し方ないとして、④から⑥につ  
いては、心の持ちようで、ずいぶ  
ん変わるものでしょうが、「人は  
嫌がる」というのに、本人はそれ  
に気づいていないというところに  
問題があるようにも思われます。

それにしてもこれらについて  
は、もうすでに老人の域に達して  
いる方、また、私を含め老人予備  
軍の方々も、肝に銘じておきたい

ものばかりです。とくに、④につ  
きましては、周りの者に迷惑をか  
けるばかりか、自分自身が面白く  
ないわけですから、このところ  
を何とか克服できれば、精神的な  
面で、安定した老後を過ごすこと  
が出来、そして、終に来る最期の  
時を、心穏やかに迎えることが出  
来るような気がいたします。

ただ、人間にとって、死への恐  
怖はどうしても拭い去ることは出  
来ません。しかも、老いれば老い  
るほどにそれが近づいて来るとい  
う思いが、老人の心を曲げさせ不  
安定にしてしまいます。ならばど  
うすればよいかというと、簡単な  
ことです。永遠の命を獲得すれば  
いいのです。「そんな馬鹿な」と  
思われるかもしれませんが、こん  
なエピソードが伝わっています。  
宗祖法然上人は、八十才で亡く

なっておられます。晩年、見舞いに来る弟子達に対して、「浄土を願う行人は、病患をえて偏ひとへにこれを樂しむ」とおっしゃったといいます。つまり、「こうして病気になるって伏せているが、いよいよこれでお浄土へ往かさせていただけるかと思うと、目的地を間近にした旅人のように、今はワクワクしているのだ」とおっしゃったのであります。

極楽浄土に往生を願うということとは、死というひとつの通過点を経て、浄土に生まれ往くことであり、それは、無量寿仏（阿弥陀仏）のもとで、無量の寿命を頂くということを意味するのであります。『大無量寿経』には、阿弥陀仏が成仏されるにあたって立てられた、四十八の誓願の記述があります。その第十五願に、浄土の住人

の寿命は限りがなく、かつ、望みに応じて長短自在であること、そして、よく知られているところの念仏往生の願は、第十八願で、浄土往生を願い念仏する者は、もれなく救いとるということが説かれています。

これを**本願**と呼びます。あまりに阿弥陀仏の本願が有名で、本願というと、この十八願のことを指すことが多いですが、本来は、仏陀や菩薩が、修行中に立てた衆生救済の誓願のことをいいます。ですから、**空・因縁生起・諸行無常**といった真理（法）を具現化したものと考えてよいかと思います。

**空・縁起・無常**の法は、自分の体ひとつをとってみましても、厳然と作用しています。父母という因により人間としての生命を頂く私自身も、縁を失えば死に往く

身であります。細かく見れば、母体で赤ちゃんが生育する過程で、手はグローブのような状態から、周りの細胞が死んで指が形成されるように、また、人間の寿命の最長は百二十年、それ以上は生きられないように、あらかじめプログラムされているのだといいます。

このような生命の不思議、自然・宇宙の神秘には、科学が進めば進むほどに驚かされます。そこには、**空・縁起・無常**という法のもと、森羅万象を動かしている何らかの意思が働いているとしか思わざるをえません。その見えざる偉大な慈悲の力を具現化したものこそ、**弥陀の本願**に相違なかつたものと思っております。ゆえに善導大師曰く、「称名念仏するものは、必ず浄土に救いとうと誓われた本願は、決して虚りではない」と。

◎無尽むじん

「無尽講」あるいは「頼母子講」

とも呼ばれる庶民の掛銭による相互金融の方法は江戸時代から発展するが、その原型はインドに求めることができる。信者から寄進された財物は蓄えて利殖を図り、寺院の修理などにあてられるのだが、そのシステムが「無尽蔵」。

やがてこの語は、取つても取つても尽きぬことを表す意味になるのだが、本来はお金をためふやすというニュアンスでしかなかったのだ。

今週の一言

「がんばれ」と励ますよりも泣ける場所

やがて日本にもその方法が伝わるが、鎌倉時代以降には一般社会にもその風習が広がり、担保を預けて金の貸借をする方法

が無尽講と呼ばれるようになった。

もちろん「無尽」は、尽きることがないという意味。仏の教え、菩薩の慈悲が無限に深いさまを形容したりする。

◎外題げだい

『与話情浮名横櫛』といえは、も

ちろん歌舞伎の名狂言お富、与三郎の「外題」。この外題という語は、今でこそ歌舞伎や浄瑠璃のタイトルとして理解されているが本来は書物全体の題を指す語であった。

なかでもよく使われたのが写経、あるいは経本。これらの書物の表紙に記されるのが、実は外題だったのである。書物の外側にあるからこそ、こつした名がつけられたのだが、では本文の最初につけられた題はどう呼ぶのか？

「内題」である。さらには、外題

に略名、内題に本当の題名をつけることもあったとか。ほかの呼び方としては「題目」「題号」が。

（『仏教のことは』ひろさちや監修）

雑記

▼春彼岸施餓鬼会

3月20日（火）

午後1時30分～2時45分

今年も、近年になく寒いですが、間違いなく春は近づいています。春のお彼岸ももうすぐです。お施餓鬼が勤まります。お参り下さいますようお願いいたします。

▼パソコン

さすがにウィンドウズXPは古くなったので、レンタル落ちの中古機を改造中です。最新式ではありませんが、何とか使える物になりそうです。

◆お気に入りカルピス笑顔桃節句 沐魚

